資料2

地方創生交付金（拠点整備交付金）（平成29年度事業及び平成30年度事業）に係る事業実施結果報告

（各交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）の実績値等）

	部局	事業実施課	① 交付対象事業名	② 事業概要	交付対象事業費 （単位：円）	交付金額 （単位：円） 【補助率1/2】	③本事業における重要業績評価指標（KPI）			事業開始前	数値目標	H31.3時点における実績値	④ 事業実施課による評価	⑤ 外部有識者からの評価	
								指標	単位	指標値（a）	H31.3末	実績値(b)		事業の評価（案）	外部有識者からの意見（案）
1	土木部	港湾空港課	「鹿児島と世界をつなぐ」国際クルーズ受入観光拠点施設整備による地域活性化計画	マリンポートかごしまに海外観光客が買い物できる物販スペースや県民と観光客が交流できる交流スペース，CIQ機能を有する観光拠点施設（クルーズターミナル）を整備するとともに，北ふ頭へ国際クルーズ船が寄港できるよう整備を行う。 これにより，国際クルーズ船の誘致の強化が図られ，雇用創出や交流人口の拡大が図られる。	775,000,000	384,608,500	指標①	鹿児島港における国際クルーズ船乗客による消費額	万円	204,600	580,800	600,600	クルーズターミナルの整備により，入国等の手続きの迅速化が図られ，観光地等により長く滞在してもらえることや，クルーズ船の誘致にはずみがつき，多くのクルーズ船が寄港することなどが期待される。 鹿児島港においては，昨年，100回のクルーズ船寄港があり，過去最高の約27万人の観光客数を記録するなど，近年，クルーズ船寄港数が増加傾向にあり，本年は，昨年を上回る寄港数及び観光客数になると見込んでいる。		
							指標②	マリンポートかごしまクルーズターミナル（仮称）の使用料収入	千円	0	26,586	920			
							指標③	鹿児島港に寄港する国際クルーズ船乗客数	万人	9.3	26.4	27.3			
2	農政部	経営技術課	花き新品種・新技術開発によるかごしまブランド産地育成計画	農業開発総合センターの花き研究部門を，吹上・金峰地区に移転・集約し，新たなニーズに対応した新品種の育成や，現場の課題を解決するための新技術開発などに取り組む。 これにより，競争力の強いかごしまブランドの産地を育成し，花き生産の担い手確保や雇用の創出を図る。	408,575,000	189,116,960	指標①	切り花類産出増加額	千円	0	130,600	調査中 （R2.3頃）	H30.3月に施設整備を完了し，H30.4 月から供用を開始，新技術開発等試験研究に取り組んでいる。 集約されたことにより，研究が効率的に行えるようになった。		
							指標②	花きの新技術の開発件数	件	1	3	3			
							指標③	花きの育成品種の栽培農家数	戸	46	66	107			
3	国体・全国障害者スポーツ大会局	施設調整課	スポーツ合宿を通じた交流促進等による地域活性化計画	南大隅町にある自転車競技場を九州本土で初めての走路周長333.33mトラック（日本自転車競技連盟推奨）に整備することにより，日本自転車競技連盟が主催する大会の誘致や，地の利を生かして地元の強豪チームと連携した合宿の呼び込みを行う。 また，現在整備を進めている大隅陸上競技トレーニング拠点施設をはじめとする県有施設や地元市町の体育施設と連携して，合宿者等の幅広いニーズに対応し，地域外からの「ひと」の流れをつくり，交流人口の拡大による地域活性化を図る。	218,880,000	109,440,000	指標①	大隅地域延べ宿泊者数	人	493,000	523,000	調査中 （R1.11頃）	昨年度に引き続き自転車競技場整備事業を実施している（H30年度に競技場の走路本体工・舗装工等の整備を予定していたが，走路本体工の盛土材料の改良に日数を要したため，H31年度に繰り越して行っている）ため，評価できない。		
							指標②	大隅地域合宿受入人数	人	47,000	53,000	調査中 （R1,9頃）			
							指標③	自転車競技場利用人数	人	1,800		整備中のため利用者なし			
4	農政部	経営技術課	お茶の近未来技術研究開発・実証拠点施設整備プロジェクト	農業開発総合センターにおいて，AIによる防霜やかん水などほ場管理の自動制御技術や，茶の摘採機の無人走行技術など，スマート農業の確立に向けた省力・低コスト生産につながる近未来技術を導入するための研究・開発を行うとともに，新たなマーケットとなる海外への輸出を視野に，相手国の厳しい残留農薬基準等をクリアできる有機栽培技術や，海外で消費が伸びている抹茶の生産技術の確立等，先進的な研究・開発に向けた取組を進める。	774,123,000	214,289,200円は次年度へ繰越 160,324,637	指標①	茶の輸出による販売増加額	千円	220,000		－	H31.3月に施設整備を完了する予定であったが，建築資材である高力ボルトの不足により，一部をR元年度に事故繰越した。このため施設が完成していないことから評価できない。		
							指標②	茶の高付加価値化につながる有機栽培茶園面積の増加	ha	415		－			
							指標③	当該施設による低コスト・高品質，高付加価値化につながる先進的な技術開発件数	件	1		－			
合計					2,176,578,000	843,490,097									